

植込み型心臓ペースメーカー・植込み型除細動器(ICD)等の医療機器情報サービス提供者  
(仮 CDR: Cardiac Device Representative)の役割について

心臓ペースメーカーや植込み型除細動器(ICD)等は患者様一人ひとりの病態や症状に合わせて、常に複雑なプログラミングの設定、調整が必要な医療機器である。その技術革新は他の先進医療機器よりも早く、2～3年間で市場にある製品が刷新されている。新製品は常に新しい機能が追加され、プログラミング方法も複雑化している。こうした状況で、医師を含め医療従事者が市場にある全製品の詳細を熟知し、100%活用することは現実的に不可能である。

医療現場においては、臨床工学技士のほか、製品知識、技術情報等に精通している企業に所属する医療機器情報サービス提供者(製造元従業員、製造元と契約関係の販売代理人を含む。以下、CDRと呼ぶ)の果たしてきた役割が大きい。特に、CDRは医師の管理・指導の下、ペースメーカー・ICDの植込み手術時のプログラマーやPSA等の機器操作やトラブルシューティング、フォローアップを行うほか、医師及び医療機関に従事する臨床工学技士や看護師などのコメディカルに対して技術情報提供を行うなど、医療安全の確保と医療機器の適切使用の向上のために重要な役割を果たしている。そして、この現状は今後も続くものと考える。

日本不整脈学会(J-HRS)としては、今後、タスクフォースチームを編成し、臨床現場におけるCDRの果たすべき役割等を定義することで、心臓ペースメーカーや植込み型除細動器(ICD)等を使用する患者様へ質の高い、経済的なケアを維持・向上させていきたいと考えている。その一環として、臨床工学技士やCDRの知識レベルを継続的に高めていくための検定試験導入や資格認定制度の構築においても協力していく計画である。

平成19年5月

特定非営利活動法人 日本不整脈学会  
会頭 田中 茂夫